

伊勢の中世

第 3 0 8 号
伊勢中世史研究会
令和6年1月1日発行

事務局：〒515-2321 三重県松阪市嬉野中川町 1524-121 竹田憲治方

メール takeda@ztv.ne.jp ホームページ <http://mietyusei.bakufu.org/>

令和4年度 コロナ禍における南勢地方の御頭神事等の実施状況について

新型コロナウイルス（以下、コロナ）は、令和5年5月8日から感染法上の5類感染症に位置づけが移行した。現在も感染は続いているが、日常生活が戻りつつあることを感じる。各地の祭礼行事も、様々な報道で「〇年ぶりの開催」という見出しをよく見かけるようになった。コロナの国内での感染が初めて確認された令和2年1月から3年以上にわたり、世界中で未知のウイルスに社会が翻弄された。将来への継承問題がそれ以前から顕在化していた祭礼行事にとって、コロナ禍の影響により大きな変容が生じることとなった。今回は令和4年度の南勢地方の御頭神事等を対象に、筆者が見学や聞き取りを行った実施状況を報告したい。（註1）

各地の実施状況と昨年度との比較

筆者は、例年1月～3月にかけて伊勢市等の南勢地域の各地区で無病息災等を願って催行される御頭神事等について、コロナ禍の影響が生じ始めた令和2年度から定期的に実施状況を確認してきた。それぞれの地域では、これまで受け継がれてきた伝統行事の実施と新型コロナウイルスの感染防止の狭間で苦悩していた状況が見られた。その中で、各地区の抱える地域性の中でさまざまな方法で実施がなされていた。その実施状況を、「従来通り：○」、「規模縮小しつつ舞のみ：△」、「中止：×」、「不明：？」の6つに分類し、令和2年度～令和4年度の推移状況を表1にまとめ、表2では、分析対象とした27地区について、開催日順に、個々の事例の推移をまとめた。（註2）表1で令和2、3年度と令和4年度を比較すると、従来通りの実施が増え、中止数が減少し回復傾向にあることがわかる。一方で、一番多いのは規模を縮小した形での実施で、コロナ禍以前に完全に戻っているわけではなく、依然としてコロナの感染対策を講じながらも地域の伝統をつなげようとしている状況がよみとれる。（註3）

	R2	R3	R4
○	1	1	4
□	9	10	15
■	5	7	5
△	2	3	2
×	6	3	1
?	4	3	0

表1 各地の催行状況の推移

催行日	場所	R2	R3	R4	備考	自治体	指定
1月8日	有滝	×	■	■	へーパイのみ	伊勢市	
1月8日?	世古	□	□	□	各戸訪問のみ実施	玉城町	
1月9日	茜社	■	○	□	社頭と長峯神社のみ	伊勢市	
1月14日	世木神社	×	□	□	社頭のみ※雨天のため	伊勢市	
1月15日	上社	□	□	○	巡行実施	伊勢市	

1月15日	箕曲中松原社	□	□	□	社頭での舞のみ、巡行なし	伊勢市	
1月28日	東大淀	△	■	□		伊勢市	県
1月29日	山神	×	×	×		玉城町	県
1月29日	宮古	■	■	■	梶原寺廃寺のため公民館に移転	玉城町	県
2月4日	下久具	□	×	□	祠前で一舞	度会町	県
2月5日	斎田	?	?	■		南伊勢	
2月11日	中須	■	■	■	コロナ以前から飾るのみ	伊勢市	
2月11日	城田神社	×	■	△		伊勢市	
2月11日	前野	×	×	○		明和町	町
2月11日	官舎神社	○	△?	□		伊勢市	市
2月11日	掛橋	?	□	□		伊勢市	市
2月11日	須原大社	△	△	△	神事のみ	伊勢市	
2月11日	坂社	□	□	□		伊勢市	
2月11日	今社	□	□	□	社頭、各辻での舞のみ	伊勢市	
2月11日	棚橋	□	□	□		度会町	県
2月11日	高向	×	△	○		伊勢市	国
2月11日	村松	■	■	○		伊勢市	市
2月12日	一之瀬	×	×	□	南中村：内回り、脇出：神社で舞、和井野：飾るのみ、市場：中止	度会町	県
2月12日	磯	?	?	■		伊勢市	
2月12日	豊浜（森地区）	?	?	□	上地区は不明	伊勢市	
2月19日	田丸神社	□	□	□	獅子舞サミット開催 官舎神社、高向参加	玉城町	町
2月23日	有田神社	□	□	□	西回り：井倉のみ舞 東回り：妙法寺のみ舞	玉城町 伊勢市	

○：例年通り、□：規模縮小等あるが舞があった、■：飾るのみ等、△：神事のみ、×：中止、？：不明

表2 令和2～4年度御頭神事等の実施状況（色塗り地区は令和4年度に直接見学したもの）

個別事例

以下、筆者が直接見学できた個別例をいくつか紹介したい。

□：規模縮小型 田丸神社

田丸神社では過去のコロナ禍でも、令和元年度は関係者のみで時期を遅らせて実施、令和2年度は関係者のみで氏子域が見渡せる田丸城で舞を行うなど工夫をしながら実施している。本年度

は獅子頭の新調を行い、「獅子舞サミット」を企画し、高向の御頭神事や官舎神社の御頭神事などにも呼びかけ、田丸神社で周辺の獅子舞が披露された。従来の実施方法とは異なるものの、獅子頭の新調を好機として住民の関心を改めて高めようとしているよううかがえた。氏子域各戸への巡行は行わなかったものの、水鏡や鼻あぶりは行ったとのことで、当神事の重要な要素は途切れることなく行われた。

□：規模縮小型 棚橋

棚橋地区では、昨年度に引き続き規模を縮小して実施された。しかし、細かく神事の諸要素をまとめると表3のようになり、令和2・3年度と比較すると、規模縮小と分類をしても細かな変化が見られ、コロナの感染状況に大きく左右されているといえる。棚橋地区では令和3年度に比べて、子どもへのハガミや本役の舞手による舞数も従来通りに戻り、夜の打ち舞も座敷の中ではあるものの実施され従来の神事の姿に戻りつつある。

	R2	R3	R4
モノツクリ	区役員、当番、関係者	各戸で製作	区役員、当番、関係者
浜行き	二見、氏神社に分ける	氏神社に現地集合、区役員のみ二見へ	二見、氏神社に分ける
稽古	無し	無し	無し
宵宮	関係者のみ	関係者のみ（短縮）	関係者のみ
観覧者	関係者のみ（観覧あり）	関係者のみ（20名ほど）	屋外から観覧
舞	座敷舞、打ち舞、各地舞 （祢宜家内）	座敷舞（一舞のみ）	座敷舞、打ち舞、各地舞 （祢宜家内）
ウマ	有り	有り	有り
イモトリ	有り	無し	有り
ハガミ	祢宜家内	祢宜家内	祢宜家内
セチ	無し	無し	受取る
頭噛み	有り（距離を取る）	無し	有り

表3 棚橋の御頭神事の各要素の推移

×：中止 山神

山神地区はコロナ感染症の流行が始まって以来3年連続での中止となり、御頭神事の事例では最もコロナ禍の影響を受けている事例といえる。本地区の獅子舞はコロナ以前観衆やカメラマンも多くにぎやかな様子であったが、逆に外部からの観覧者が多いことが催行への課題になったのかもしれない。今年度は実施されるか注視したい。

まとめ

コロナによる祭礼行事への影響について、御頭神事の実施状況を令和2年度から比較しながら、令和4年度の状況についてレポートした。コロナ禍による3年間の影響は、間違いなく祭礼行事の継承に大きなダメージを及ぼした。たとえコロナ禍を克服し実施できていても、関係者を絞り込み、若年層の参画を制限した事例も多く、数年後に担い手不足の問題が一層強くなることが懸念される。また、中には規模が縮小されたことで役員の負担が少なくなり、「正直言ってホッと

している」という本音を聞く場面もあった。過度な負担が一部の住民に集中することなく、少ない担い手の中でも分担し合って軽減することや、立ち止まって祭礼行事の本質的価値は何なのかを議論し、どうしても失くしてはならない要素を見極め、社会情勢にあった持続可能な着地点を見つけていく必要があるように感じる。実施日の前日まで舞の実施が計画されていたが、舞手に忌まれがかり急きょ規模を縮小した事例もあった。今後、ますます高齢化が進み「多死社会」を迎えていく。祭礼行事を守るために決められた仕来りによって、祭礼行事そのものが実施できなくなるとは本末転倒となる。住民の合意形成を図りながら忌まれをどのように克服するかも重要なことだと感じる。コロナ後の推移も調査を続けていきたい。

(味噌井 拓志)

註1) 令和2、3年度の実施状況についても、本誌第283号、第300号で報告した。今回の報告では、過去の状況についても改めて聞き取り調査等を行い追加・修正した部分がある。

註2) 実施状況の確認方法として、現地見学のほか、関係者への取材に加え、SNS上での投稿などの情報を基に作成した。そのため、情報の確度が低いものも含まれている。

註3) 本分類での「従来通り」の基準は、過去の調査報告や実施者らへの聞き取りを通じて、コロナ以前と祭礼行事を構成する諸要素がほとんど満たされたものとした。ただし、従来通りと判断するためには過去に定期的な記録作成や調査が実施され現在の状況と比較できることが極めて重要である。また、民俗文化財である以上、実施行為に少しずつでも変化があることは避けられないことを前提として、コロナ禍という特殊な要素が介在した前後での比較という点に重きをおいた。



3年ぶりに舞が行われた東大淀の御頭神事



祢宜家の中で行われた棚橋の御頭神事の打ち舞



田丸神社での獅子舞サミットを周知するチラシ



新旧の獅子頭を中心に周辺の獅子も披露された